

特集：RX-8

8

## RX-8のデザイン Design of RX-8

前田 育男\*1

Ikuro Maeda

### 要約

ブランドアイコンとしてマツダブランドの将来を示唆する使命を持ち、革新的なレイアウト、新規性の高いドアシステム、新しいロータリエンジンなどマツダのチャレンジスピリットとスポーツカー造りの永年培われたノウハウを詰め込んだ商品がこのRX-8である。デザイン開発においても、“新しいスポーツカーの形”を創造することを基本の目標とした。デザインDNAを的確に継承しつつ、一目で新しいマツダスポーツカースピリットが感じられる形状を創り出すため、造形表現、質感表現など様々なチャレンジを行った。ダイナミックかつ軽快感溢れる、引き締まったエクステリア造形、心地よい大人4人のための居住空間という相反する要素を同時に体現し、加えて本物感を目指し、形、テクスチャー、素材、色、機能をトータルでコントロールした質感表現を行い、マツダデザインDNAを最も特徴的に表現するスタイリングを目指した。

### Summary

RX-8 is on a mission to inspire the future of Mazda brand as a brand icon packed with Mazda's challenge spirit that can be seen in its innovative layout, new-type door system and new rotary engine as well as the expertise of creating sports cars that have been developed within Mazda over the years. Creating a “New Sports Car Style” was the primary theme of the design development. In order to accurately succeed the Design DNA and create a sports car that shows our new spirit of sports car, we faced various challenges such as styling and representation of high quality feel. RX-8 has a lean body in consideration of high-power and airlines, yet also has an interior space that can accommodate four adults. In addition, we aimed for a sense of reality and tried to create a sense of verisimilitude by collectively coordinating the style, texture, material, color and function, thus achieving the best styling that characterizes Mazda Design DNA.

### 1. はじめに

1999年、東京モーターショーカーとしてデビューしたRX-EVOLVによって、RX-8のデザイン開発がスタートした。市場環境の変化によって、歴史あるスポーツモデルが消えていくなかで、スポーツカーが存在し得る新しいフィールドを生み出すこと、それが長年に渡ってスポーツカーを造り続けてきたマツダの使命だと言える。その答えを示すため生まれたのがこのRX-8である。

スポーツカーの居住空間を革新するインテリアデザインとリアルスポーツカーとしてのエクステリアデザインの両

立を実現させることが出来れば、“新しいスポーツカーの形”を創造する事が出来る。これは、スポーツカーメーカーのマツダにとって、我々デザイナーにとっても非常にエキサイティングなチャレンジだった。

### 2. デザインの狙い

デザイン開発においては、ブランドアイコンとしてマツダブランドを的確に表現することが最も重要であると考えた。RX-7、ロードスターなどの歴代スポーツカーが構築してきた独自のスポーツカーブランド、それから革新的な技術を生み出してきたフロンティアスピリット、この2つの

\* 1 アドバンスデザインスタジオ  
Advance Design Studio

イメージを融合させた“マツダらしさ”を解りやすい形として表現すること、これをデザインの基本方針とした。この表現を具現化するための施策として以下の3つのアイテムをテーマとし、デザイン開発を行った。

(1) ユニークなテクノロジーを生かしたデザイン

コンパクトなサイズ、搭載位置を持つマツダ独自のロータリエンジン、フリースタイルドア・バックボーンフレームが造り出す全く新しいパッケージングを最大限生かしながら、オーソドックスな4ドア車に見えない、アグレッシブなスタイリング、新しいインテリア空間を創造する。

(2) アスレティックな“動き”の表現

マツダスポーツカーDNAであるライトウエイトで軽快な雰囲気を受け継ぎ、硬質で力強い造形でアスレティックな動きを表現、インテリアもエクステリアとのインテグレーションを図ったアスレティックな造形表現を行う。

(3) 本物感、温かみを感じる新しい質感表現

デジタルデータのみで造られたようなクールなフィーリングではなく、エクステリア、インテリアパーツとも、材質、形状、手触り、剛性感など、多角的に質感をコントロールし、職人が造りこんだような本物感、温かみを感じる質感表現を行う。

### 3. スポーツカーのプロポーション

エクステリアデザインは、スポーツカーらしいバランスを生み出すことから始めた。

スポーツカーのプロポーションに明確な定義が存在している訳ではない。しかし、スポーツカーに見えるかどうかは漠然とある境界線が存在している。その境界線を探り出すためにスポーツカー、スペシャルティカー、スポーツィセダンの代表的な車のプロファイルをいくつかの角度から比較した (Fig.1) 結果、車全体のマスに対するキャビンの占める視覚的な割合がそのキーを握ることが解った。大人4人の快適な居住空間、乗降性、視界など4シータカーとして必要な条件を確保した上で、スポーツカーと認知出来るプロポーションを創り出すためには、この研究が有効であった。この結果をベースにスケールモデルで3Dによる実際の見え方を確認した。

#### 3.1 フリースタイルドアの採用

通常の4ドアシステムではキャビン長が短く出来ないため、スポーツカーのバランスを生み出すことが出来ない。これを解決するためにフリースタイルドアを採用した。このシステムによって150mm以上リヤドアが短くなり、それによってコンパクトなキャビンを造り出すことが可能となった。

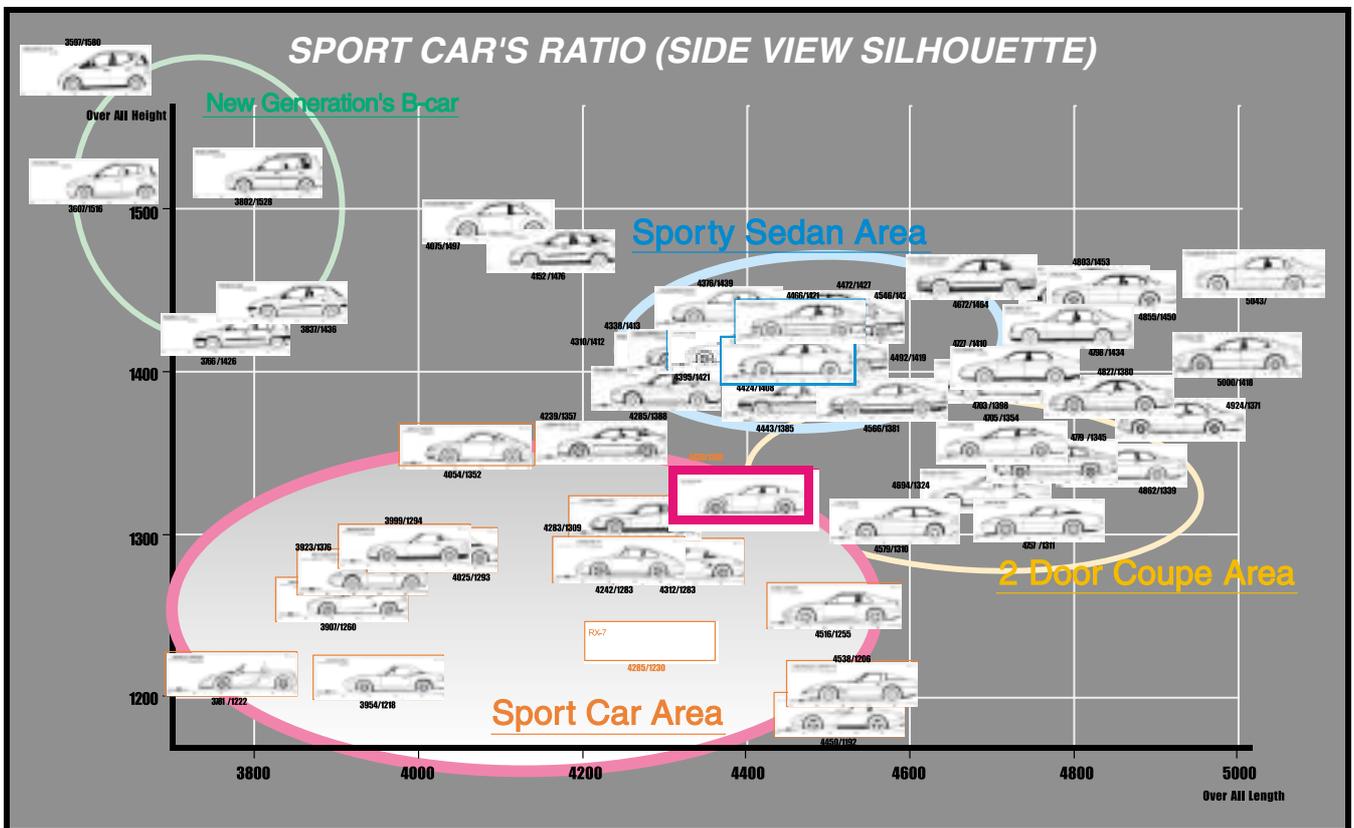


Fig.1 Sports Car's Ratio

### 3.2 コンパクトなロータリエンジン

最新の安全基準をクリアするためには、エンジンとフードの間にクラッシュゾーンが必要で、容易にノーズを低くできない。コンパクトで低い搭載位置を持つロータリエンジンによって、高い安全性能を確保しつつフード位置を下げる事が可能となり、スポーツカーらしいノーズが実現出来た。

コンパクトなキャビンと力点をホイール間に置いたCピラー形状によって安定感のあるスポーツカーらしいバランスを作り出した(Fig.2)。Fig.3は開発初期のクレモデル、未だキャビンヘビーの不安定なプローションを持つ。

## 4. マツダスポーツカーDNAの継承と革新

### 4.1 ライトウエイト

マツダのスポーツカー造りには長年培われてきた“ライトウエイト”というDNAがある。スタイリングもそのDNAを反映し、軽快なフィーリングをテーマとしてきた。

それは、ハイパワーで重いボディを引っ張るのではなく、軽量化とハンドリングの洗練によって人車一体のドライビングプレジャーを追求するマツダのスポーツカーづくりの思想を反映したものと言える。

そこで、RX-8ではそのDNAを継承し、かつアスレティックな動きを強調することで、安定感と動きという2つのファクターの両立を図り、走る姿の美しさに重点を置いたスタイリングを体現した。

### 4.2 アスレティック表現 (Fig.4)

アスレティックな動きについては、フロントのエアインテークからリアエンドにワンシェイプでつながるダイナミックな造形で表現した。これは、キャラクターラインやグラフィックといった2次元的な動きに頼らず、ボディ全体の造形で動きを表現することで、どのようなアングルで見ても、違和感のない普遍的な強い動きを体現したものである。

### 4.3 3D造形

フロントフェンダーやドアパネルなどは非常に特徴的な3D形状で構成した。この絞り込まれた造形により、軽快なフィーリングとスポーツカーらしい緊張感を表現した。

特に、フロントフェンダーは、高度なシミュレーションシステムを駆使し、生産技術のメンバーとの何カ月にも渡るコラ



Fig.2 Final Model

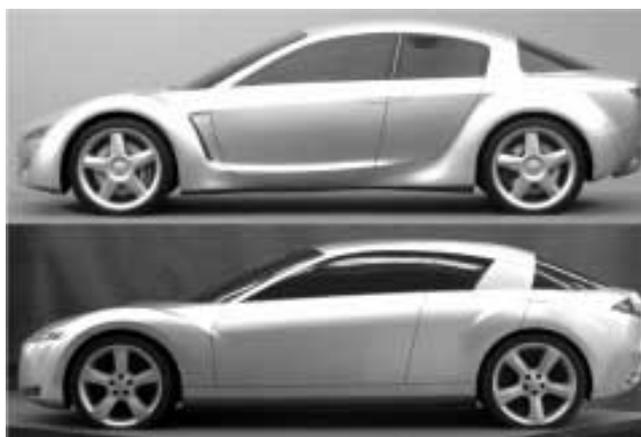


Fig.3 Proportion Study

ボレーションの未実現した。シートメタルをこれだけ深く絞り込んだ形状は、樹脂では表現出来ない独特のテンションが感じられ、職人が造った50~60年代のスポーツカーのような温かみを表現することが出来た。

### 4.4 空力性能

スポーツカーにとって重要な空力性能は、スポイラーなどの付加物なしで最適な値が得られるよう、床下形状を含めデッキ形状、リアランブレンズ形状の最適化を図った。CD=0.30(北米、欧州仕様)特に前後のリフトバランスは最良の値を実現している。



Fig.4 Dynamic Form

## 5 . インテリア空間の革新

### 5.1 心地良い包まれ感の表現

(Fig.5 , 6)

インテリアは、従来のスポーツカーが持つタイトでドライバ中心の室内空間からイメージを一新し、ドライバ、パッセンジャどちらにも配慮され、心地よい包まれ感を持つ空間を作ることを目標とした。

インストルメントパネルを、センターと両サイドの3セクションで構成し、その造型に合わせてテクスチャも使い分けることで、インストルメントパネルの重さを軽減し、タイト感を払拭した。左右パッド部分には、デジタル&レーザー切削技術を用いた新意匠のグレインを開発し、通常のレーザーグレインやエンボスグレインに比べ斬新でメカニカルな雰囲気表現した。操作系、表示系はセンターに集中させ、コンパクトでドライバ、パッセンジャどちらからも扱いやすいレイアウトとした。

### 5.2 コックピット

スポーツカーにとってコックピットのデザインは、ドライバのエンスージアスティックな世界であると同時に、その車がスポーツカーとしてどのような哲学を持っているかを示す非常に重要な場所である。我々はロータリスポーツとして、エキサイトメント、新しいスポーツカーとしての新規性を表現する事を目標とした。

コンパクトな3連メータ (Fig.7) は、ドライバの目線移動を減らすため、センターに主要な表示を集中させ、その中心にロータリエンジンならではの1万回転まで刻まれたタコメータを配置した。照明にも工夫を凝らし、昼夜間でイルミネーションの色が切り替わり、夜間は赤照明でエキサイティングな雰囲気演出している。

### 5.3 アスレティック表現

この車の大きな特徴であるドアを開けた瞬間に見える景色はエクステリアの動きとのインテグレーションに注力した。ボンネットフードのパワーバルジを起点として、インパネセンター部からセンターコンソール、リヤエンドへと連続する造形で、エクステリアデザイン同様アスレティックで強い躍動感を表現した (Fig.8)。

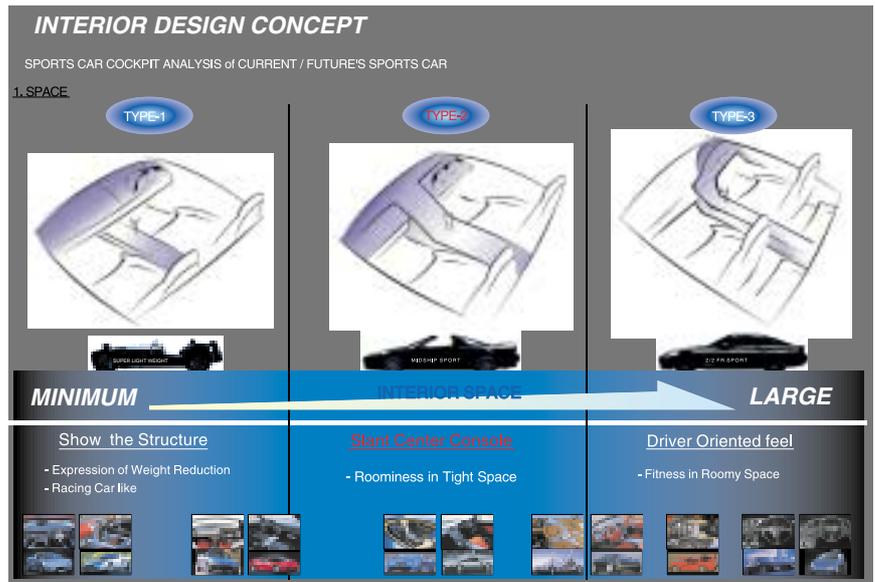


Fig.5 Interior Design Concept



Fig.6 Final Drawing

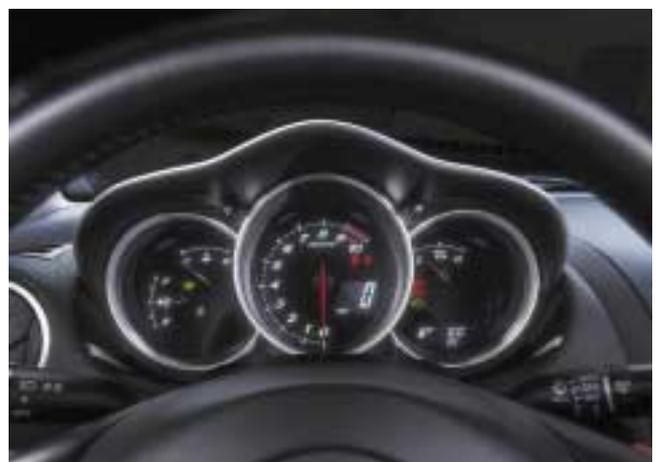


Fig.7 Meters



Fig.8 Dynamic Form

## 6. 新しいクオリティ表現

モダン、エモーションそして機能の融合を図った新しいクオリティ表現を行った。

### 6.1 匠（職人）が造り込んだような本物感表現

部品一つ一つに至るまで、機能、形、マテリアルを吟味し、丁寧に創り込みを行った。従来インテリアではアクセントとしてペイント（シルバー）もしくはプリント（木目など）が多く使われてきたが、更に本物らしさを追求するため、RX-8では金属、漆などの高級素材、もしくはそれ同等の質感を表現することを目標とし、部位を厳選して見栄えの向上を図った。メカニカルなイメージを訴求する部位、MTシフトノブ、ドアハンドルなどはメタル素材を、高級オーディオをイメージしたオーディオパネルには漆調のピアノブラック仕上げを施した。また、手の触れる部分は、ソフト材、温度変化の穏やかな多層メッキなどを使い分けることでタッチ感の向上を図った。

### 6.2 ロータリスポーツとしてのエモーション表現

MTシフトノブ（Fig.9）シートベゼル、リヤバンパに装着されるリヤフォグランプなどにロータリシェイプをモチーフとした形状を持たせ、この車の新しいロータリスポーツとしての特別な意味を表現した。



Fig.9 MT Shift Knob

### 6.3 多彩なシートバリエーション

スポーツ性の高いファブリック仕様と、3色のカラーバリエーションを持つ上質なレザー仕様を揃えることで、インテリアイメージの拡充を図った。どちらの仕様も、シートのサイド材にストライプデザインのアクセントを用い、ウエットスーツのようなスポーティさと機能美を表現した。

## 7. おわりに

RX-8のデザインにおいては、今までのスポーツカーにはなかった様々な新しい価値を生み出すことが出来た。全てが新しいチャレンジであり、その実現には予想も出来ないような困難が伴ったが、設計、実研、生産ほか全てのメンバーが常に同じ目標を共有し、相互補完しながら問題の解決にあたることが出来た。協力していただいた方々に、この場を借りてお礼を申し上げたい。

RX-8は、マツダでしか造れないスポーツカーである。私は、この車がマツダの将来にとっても、スポーツカーの将来にとっても非常に重要なアイコンになると確信している。

著者



前田育男